

# 琴浦町総合教育会議

## 会議の概要

日時 令和5年11月28日(火)15:30~16:30  
場所 町長室  
出席者 森田澄恵委員、黒松悟司委員、新田朗尚委員、鍛川智恵委員  
河原裕司教育長  
福本町長、田邊副町長  
桑本教育総務課長、山根社会教育課長、三好人権・同和教育課長

## 会議の要旨

(開会) 15:30

教育総務課長 今年度の総合教育会議は町長室を会場とさせていただいた。  
みなさんにざっくばらんに意見交換をしていただく機会としたい。  
開会にあたり町長から挨拶を。

町長 今回は普段と違う会場としました。  
みなさんと本音の話ができたらうれしい。

教育総務課長 教育長からも挨拶を。  
教育委員さんから町長に意見を伝えるととてもいい機会。  
町長からもありましたが、本音で話しあいましょう。

教育総務課長 まずは今年度、教育委員による県外視察を初めて計画した。  
参加された委員さんからご感想などを。

教育委員 初めて県外の学校を視察した。  
岡山県浅口市ではとても元気な女性の教育長から熱い想いを聴いた。  
3つの町が一緒になり、町全体での方針はあるものの、それぞれの校区で目標を持って取り組まれているのが印象に残った。  
コミュニティスクールにとっても熱心に取り組まれている地域で、隣接する小中学校で小中一貫校としてスタートし、令和7年度には義務教育学校とする方針で進んでいるとのこと。  
小中一貫校と義務教育学校の違いについてもよく理解できた。

副町長 義務教育学校のメリットというのは？  
町長 どちらも同じように思っていたが、違いを教えてほしい。  
教育長 小中一貫校は、小中それぞれに校長や教頭がいて、別々の学校が連携して教育カリキュラムを組むことになる。  
義務教育学校は、小中で校長、教頭、副校長など1人。  
カリキュラムも自由度が高く、小中の先生がどちらも教えることができる。  
学習内容も9年間を見通して考えることができる。

教育委員 私は岡山市の山南学園という開校2年目の義務教育学校を視察した。  
4つの小中学校が1つの義務教育学校となり、元あった中学校を改修、増設。  
学校が1つとなったことで教員数も減り、人件費も減ったことと、地域の声を聴いた市長が施設の充実を指示したことで、とても充実した施設整備がされ

ていた。

同校の校長曰く、小中の先生がいるが職員室を1つにすることがキモ。普段の会話からたくさんの化学反応が起きているとのこと。

中学生は小学生と一緒に校舎で過ごすことが、人間形成に良い刺激となっている。小学校高学年も希望すれば部活動に参加することもできる。

また先生に関しても教科担任制を入れやすく、自ずと持ち時間も減り働き方改革にもつながっているなど、とにかくいいことばかり。

あえてデメリットを聞いてみたが、敢えて言えば小学6年生が最高学年として学校のリーダーとなる機会が少ないということだった。

この義務教育学校の設立には、まず地域の声が高まってきたことから、機運が高まり、行政が動いていったと聞いた。

副町長

客観的に学校数だけみると統合ということだが、地域から反対の声などがありそうな案件だが。

教育委員

地域の声から動き出したことで、スムーズに進んだよう。

教育長

本町でいう大区長的な方があり方を検討する委員会などを作るなど、率先して動かれたと聞いた。

浅口市については、学校運営協議会の中から義務教育学校を望む声が高まってきたと聞いた。

このように地域からの声、動きが出てくれば、検討していくことになるのかと考えている。

副町長

コミュニティ・スクールも一つのきっかけになるのでは。

教育長

各学校運営協議会の委員に視察してもらうのも一案。

副町長

自分自身は、分校で複式学級で育った。いい面もたくさんあったと思うが、社会性を身につけるにはある程度の集団も必要。

教育長

国が示す適正規模は1学級20人から30人程度。

教育委員

山南学園には地域の方が自由に使うことができるスペースもあった。

浅口市で計画されている寄島義務教育学校の改修でも地域の方用の部屋を計画されていた。

教育長

地域の人たちの意見から検討が始まっていることもあり、スクールバスのバス停やルートも地域の人たちが全部考えたということで、地域の機運が高まるとすごいと感じた。

教育委員

自分は視察には参加していないが、教育委員会での報告を聞いていてとても魅力的に感じた。地域の人たちの思いがある学校にぜひ通わせたいと願う。

教育委員

子どもたちの教育の場が良くなっていくのはいいが、仕事があれば人口は減っていく。持続可能なまちを作っていく必要がある。

町長

各委員が言われるように、地域の要望があってやるのと、行政主導でやるのとでは全く違う。

教育委員

そういう意味でも視察に行って実際に見てみるのはとてもいいこと。

教育委員

山南学園の準備の段階でも、大勢の地域の方が大阪などにたくさん視察に行かれたという話だった。

町長 本当の議論がされていたら憶測や想像でいろんな声が飛び交うこともないかもしれない。

教育委員 そういう意味でも熟議が重要。

教育委員 寄島では、学校運営協議会という名称も、学校独自のものを考えて使っているという話だった。名称ひとつでも、地域の子どもたちを自分たちで育てていこうという機運にもつながる。

教育委員 その地域では、外から移住してくる人もいるという話だった。

副町長 外から人が入ってくる理由に、教育環境というのも一つの大きなもの。

教育委員 宅地化して仕事もあれば人は入ってくるのでは。

副町長 仕事も、先が見えてしまうようなものではなく、長年培われてきた農業なども大切にしたい。

教育委員 本町ではおいしいものが安く手に入るとてもいい環境。

町長 町としては、保有する建物も多く、老朽化していく。一定の方針がでるまで、修繕を繰り返しながらやっていくしかないが、どこまで我慢するのかということもある。

また、1学年1クラスというのは6年間まったく同じメンバーで過ごすということ。こういう環境もどうかと思っている。

教育委員 クラス替えがない。変わるのは先生だけ。

今回、初めて計画訪問ということで町内の学校を訪問した。どこも先生が足りない、先生たちが大変そうだと感じた。

全国的な話だとは思いますが、子どもには手厚くしてほしいが、学校側にも限界があると感じた。

教育委員 学校運営協議会をうまく機能させるといいのではと思っている。

先生の負担や子どもたちの教育など、議論を深めていけば、地域の機運も高まっていくと思っている。

ただ、これもスタートしたばかりなので、これからに期待している。

町長 学校運営協議会と教育委員とが話す場というのは？

教育委員 今後、そういう場も必要かと思っている。

委員となっている方は皆さん意欲ある方ばかり。

副町長 委員の枠組みや協議に行政が関与することは？

教育長 全くない。各校で自由に、子どもたちの姿を熟議していくもの。

1年目はどうしても手探りの段階だが、赤碕中学校の取組みに面白みを感じている。

名称を独自に作るだけでも、なにか変わってくるかも。

副町長 形骸化された役員みたいなものではないのがいい。

町長 今日は委員の皆さんからいろんな意見を聞いた。

町内では、今日報告があったような地域からの声よりは、方針を聞かれることが多い。

教育委員 逆にどういうふうになればいい？と常に聞き返すとか。

副町長 ワークショップなどで意見を聞こうとするが、同じような人の声ばかりでな

く、ICT を使って多くの意見を拾っていききたい。

町長 学校の子どもが在籍している間は一生懸命だが、卒業するとそうでもなくなることが多い。

教育委員 10 年前の統合のときには、子ども園の方にも入ってもらった。  
これからの方も議論に加わることで、地域の子どもを皆で育てていくという考え方もでてくるのでは。

町長 外国人の方も増えてきている。

教育委員 昔はなかったが、今は国際性や多様性が求められる。

町長 台湾との交流を始めたいと思っている。

教育委員 子どもたちにとってよい経験になると思う。

町長 なぜ台湾かというと、昨年度中部の 1 市 4 町で台湾を訪問した際に、北栄町も三朝町も台中市の学校との交流があるということを知り、本町の子どもたちにも交流の機会を作りたいと台中市と話をした。  
その後、鳥取県と台湾との交流 5 周年で訪問したときには、台中市にある中学校が交流に名乗り出てくれていた。この学校の校長先生は、以前に三朝町との交流を行っていた経験のある先生で、いい方向に進むと思っている。  
台北には日本と台湾との歴史が見れる場所もあり、日本とのつながりを大事にしている部分を残されている国。他のところにはない、特に中学生にとって学ぶところが多い国だと思っている。

教育委員 来年度に子どもたちが台湾に行く？

町長 来年度、中学生をお互いに行き来させる方向で協議を行っているところ。  
行かせることができるのはわずか十数人ですが、受け入れのときにはみんなが関わることをできるとしている。

教育総務課長 最後に、町長から今日のまとめを。

町長 今年度教育委員のみなさんが行かれたような視察の輪をぜひ広げてほしい。  
保護者の方や学校関係者などに、先進地のいい取組みを見てもらう機会を作  
てほしいと思う。

(閉会) 16:30